



令和7年度第2回住吉区区政会議グループディスカッション 大阪公立大学生さん等からの主なご意見

A グループ 「テーマ:世代を超えた交流や、人と人がつながるためのコミュニティづくりについて」

- ・例えば、誰が主体となり、町会、校区、区域など、どのような単位で活動するのか、どのような頻度・目的で実施するのか、場所はどこか、関わる人(対象者や運営者)は誰かといった点は、実際に活動を始める際には十分に検討する必要があると思う。
- ・単に「交流しましょう」「集まりましょう」と呼びかけても、なかなか人は集まりにくいので、地域の方々の中にある共通の目的や課題を整理し、その目的や課題について共感を持って「自分も参加したい」「やってみたい」「解決してみたい」と思えるような、参加によって楽しみや生きがい、嬉しさ、面白さを感じられる場をつくることで、自然と交流が生まれていくと考えられる。
- ・例えば、実際の課題に対して、住民の方々が自分自身の課題と認識し、「関わりたい」「やってみたい」「解決していきたい」と主体的に感じられるテーマが見つかった場合、それが世代間で共通したテーマであれば、意見を出し合いながら一緒に考え、交流を深めつつ、つながりを築いていくことができるかもしれない。
- ・目的や課題は、健康に限らず、子育てやスポーツ、趣味など、どのような分野でもよい。重要なのは、住民の方が主体となって「取り組みたい」と感じるテーマを中心に活動を進めることであると考えます。

B グループ 「テーマ:お互い助け合って生活していると実感できるためには」

- ・高齢者と若者が協働して住みよいまちにするためには、大学が地域子どもたちや高齢者のためのイベントを定期的に実施し、教室や図書館を自習室として開放するなどの取組を行い、学生もその活動に参加・協力することで、地域と大学とのつながりを生み出し、大学が地域の方々にとっても開かれた場所となることが重要である。
- ・地域の治安や将来世代への支援のためには、公民館や地域の公園など、これまで限られた人にしか開放されていなかった施設を有効活用し、より多くの住民が利用しやすい場とすることで、住民同士のつながりを築き強めていくことが重要である。
- ・多様性とは「人との違いや変化に敏感になりすぎないこと」だと考え、世代ごとに多様性に対する価値観の差が大きいことが、その尊重を難しくしている一因であると捉えている。
- ・私は中学・高校では多様性の尊重について授業などで特に教わることはなく、多様性の尊重に高い意識を持つ人とそうでない人が混在しているのが現状だと思う。

C グループ 「テーマ:住吉区の魅力と地域資源を活かしたアイデアについて」

- ・あびんこ夏祭りなど、地域が一体となって参加・運営しているイベントがあるのはとてもいいことだと思った。
- ・「住吉の歴史・文化資源を活かす」という視点からは、なたね油や住吉大社など、区民もあまり認知していない歴史と有名な文化資源を組み合わせ、同じところで広報することが効果的ではないかと思った。
- ・区政の取組内容については、SNS が効果的だと考える。地域についてのお知らせなど取っつきやすい内容とセットで投稿することで、見てもらいやすくなると考えた。